



www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
 発行●2018年11月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦



Vol. 389
 社会医療法人近森会

12

高知医療再生機構補助金講演会	坂本里沙	3
第70回西日本泌尿器科学会総会	濱口卓也	4
高知医療環境セミナー	川井和哉	5
第165回地域医療講演会	葛目大輔	6
ひろっば講座特別篇	三宮将典	7
VHJ研究会第29回職員交流研修会	中村伸治	8
緩和ケアイベント開催	田中洋輔	11

目次

第6回 VHJ 機構 臨床研修医・指導医交流会



初期臨床研修管理委員会委員長

近森病院救急科科長 三木 俊史

志国高知 研修医維新博



11月10日(土)11日(日)に行われた「第6回 VHJ 機構臨床研修医・指導医交流会」の報告をいたします。これは、VHJ 機構の臨床研修推進事業の一環として毎年開催されており、VHJ 機構会員病院の研修医と指導医が、情報交換やグループディスカッション等を通じてお互いの交流を深めています。第6回開催となる今年度は、当院が主管病院となり、全国の加盟病院から、22病院、研修医84名、指導医31名、事務13名(当院含む)が参加されました。

研修医が中心となって企画・構成を考え、「志国高知 研修医維新博」というテーマを掲げ、幕末の歴史に大きな影響を及ぼした坂本龍馬が志

したように、研修医もこれからの研修に大きな発想力、行動力、決断力を磨くべく、下記の五つのセッションを用意し、6藩に分かれてグループワークを行いました。

第1部●我が病院を今一度洗濯いたし申候(自院の再認識)、第2部●脱藩への道(指導医へのホンネ)、第3部●研修八策(理想の研修医とは)、第4部●あなたにとっての理想の乙女姉やん(研修医のメンタルヘルス)、第5部●研修医維新～研修医の夜明けぜよ～(まとめ)、とどのセッションも細部まで企画が練られており、たいへん好評でした。今の自分たちが思い描いている理想の研修や研修医、そしてそのためには何が不足し

ているのか、何が必要なかを活発に議論し、改めてそれぞれの明日からの研修医維新につながったのではないかと思います。また、夜の懇親会では、高知の食とお酒を楽しんでいただき、交友を深めました。

日々の忙しい研修のなか、並行して準備から当日の運営まで大変でしたが、今後の充実した研修につながるたいへん有意義な交流会になったのではないかと思います。研修医の皆様、ほんとうにお疲れさまでした。また、この期間に診療をカバーしていただきました指導医やスタッフの皆さん、たいへんありがとうございました。

みき としふみ



▲指導医に見守られながらグループワーク



▲成果発表。衣裳も高知らしく



第6回 VHJ機構臨床研修医・指導医交流会



救急外来でのトリアージシステム —緊急度の高い患者さんを見逃さないために—

近森病院救命救急センター（ER）
救命救急認定看護師 酒井 由夏

▼ ER では救急受入の電話が月約 600 件ほど届いている

院内トリアージという言葉をお聞きになったことはありますか？ 院内トリアージは、重症から軽症までさまざまな患者さんが訪れる救急外来で、トリアージナースがフィジカルアセスメントや臨床推論という技法を用いて、緊急度の高い患者さんを優先して速やかに診療へ

繋ぐことを目的として行われています。

当院では 2009 年から JTAS という院内緊急度判定システムを導入しトリアージを実施しています。これにより緊急度の高い患者さんの診療が一層スピーディーに行われるようになってきました。



トリアージはツールを使用すれば行えるものではなく、問診法やフィジカルアセスメント、臨床推論などさまざまな技術が必要となります。トリアージナースのすべてが質の高いトリアージを行うため、一人ひとりのトリアージを検証しフィードバックを行ったり、症例検討会でのディスカッションを行ったりしています。今後は教育体制やプロトコルの見直しなどを行い、さらなるトリアージの質の向上を目指してい

たいと思っています。

トリアージは奥が深く難しいこともあります。緊急度の高い患者さんを見逃すことなく安心して診療に繋がっていくことができるようにしていきたいと思っています。緊急度が低いと判断された患者さんに対しては、待ち時間が長くなってしまいう可能性があるため、緊急度が低い患者さんの不安の軽減や症状の緩和に努めていきたいと思

さかい ゆか

12月の歳時記

ノースポール

近森病院北館 2 階病棟
看護師長 佐藤 久美子

ノースポールは、マーガレットに似ていることからミニマーガレットとも呼ばれています。この白い可愛い花は看護師になって仲良くなった先輩看護師に頂いた花です。ノースポールをみると向上心のある先輩を思い出します。花言葉は「誠実」です。これからも向上心を忘れず誠実な態度で患者さんやご家族に関わっていきます。

さとう くみこ



乞！熱烈応援

チーム医療

近森病院麻酔科科長
(部長代行) 杉本 健太郎



患者さんに安全で快適な周術期を提供できる麻酔科医になりたいと思っています。また、一緒に働いてくれる方々と円滑にコミュニケーションをとって、協力しながら働くことはとても重要だと思っています。そして、自分自身がこの仕事を楽しむ気持ちをもちながら毎日を過ごしたいと思っています。宜しくお願い致します。

すぎもと けんたろう

チームで臨む周術期管理

近森病院麻酔科 坂本 里沙



演者・岡山大学大学院
医歯薬学総合研究科
呼吸器・乳腺内分泌外科学
教授 豊岡伸一先生



座長・岡山大学顧問
岡山大学名誉教授
近森病院顧問
森田潔先生



豊岡先生を囲んで。執筆者・前列左

豊岡教授は平成6年に岡山大学医学部をご卒業され、同大学呼吸器・内分泌外科学に入局されました。米国のSouthwestern Medical Centerへ留学されたのち、平成29年には岡山大学呼吸器外科の教授に就任され、臨床・研究ともに精力的にご活躍されています。

ご講演は「呼吸器外科手術と周術期管理」というタイトルで、高難度の呼吸器外科手術や、多職種が介入する周術期管理についてでした。

とくに感銘を受けたのは、岡山大学では多職種周術期チームを立ち上げたことで、術後誤嚥性肺炎の発生やせん妄の重症化を抑えられたとい

う点でした。

近森病院でも多くのコメディカルが積極的に周術期に関わっており、岡山大学と同様の充実したケアを行っていると感じました。チーム医療の大切さをご教授いただき、とても有意義な時間でした。

さかもと りさ

専門雑誌「医療薬学」、「日本病院薬剤師会雑誌」に論文が掲載されました！

掲載論文名

心筋保護液

“del Nido Chikamori Modification”
の調製
—市販製剤を利用した無菌製剤の調製—



近森病院薬剤部 高田 令奈

当院の薬剤師業務による患者さんの治療への貢献が、10月に論文の2誌同時掲載という嬉しい形となって認められました。

薬剤部の高田が執筆した心筋保護液に関する論文が医療薬学という雑誌に、宮崎が執筆したがん化学療法に関する論文が日本病院薬剤師会雑誌にそれぞれ掲載されました。

心筋保護液に関する論文では、del Nido 液という海外の心筋保護液を近森病院で使用できるよう調製した院内製剤の有用性について報告しました。また、がん化学療法に関する論文では、薬剤師が副作用の早期発見、予防を目的としてプロトコルに従った検査オーダーの代行入力を行うことの有用性を報告しています。

掲載論文名

がん化学療法による

B型肝炎再活性化早期発見に向けた
プロトコルに基づく
薬物治療管理の構築と評価



近森病院薬剤部
主任 宮崎 俊明 (文責)

どちらの論文も、患者さんのために薬剤部が行ってきた業務のアウトカムを出せたことが、掲載につながったものと思われます。これからも今回の論文になった内容を含めた、さまざまな当院の薬剤師業務で患者さんの治療に貢献し、その成果を発信していきたいと思えます。

たかた れな/みやざき としあき

尿路結石治療、明日への挑戦

近森病院泌尿器科

部長 瀨口 卓也



11月1日から4日間にわたり第70回西日本泌尿器科学会総会（長崎市）が開催されました。その中のセッションの一つである「ワークショップ 1 尿路結石治療、明日への挑戦」で5人の演者のうちのひとりとして参加・講演の機会をいただき



ました。

私の担当テーマは「体外衝撃波結石破砕術（以下 ESWL）」についての内容が与えられており、当日は「内視鏡時代における ESWL の位置づけ」というタイトルで講演しました。

内視鏡やレーザーの進歩により、現在結石治療は内視鏡治療が主役の座を占めています。当院でも内視鏡治療がメインの治療となっていますが、低侵襲で外来治療可能な ESWL も厳密な症例選択と照射法の工夫により非常に効果のある治療法です。何より

患者さんへの負担も少なく、患者さんにやさしい治療といった点で有益な治療法です。こういった点を中心に講演し、他施設の講演も拝聴させていただき、非常に参考となり、いろんな面で刺激を受けました。

今回の学会のテーマは「明日への挑戦」でした。今後も日々発展をめざし、明日からの診療に尽力しなければならないこと、明日からも日々奮闘し、挑戦し続けなければならないことを再認識させられました。

はまぐち たくや

リレー エッセイ

サッカー

近森病院北館 5・6 階病棟

看護師 松崎 智美



私には3人の子どもがいます。小4と小1の男の子と3歳の娘がいます。上2人の男の子が急にサッカーをしたいといい始めました。ゲームをしていいかと直ぐに聞いてくるぐらいゲームが大好きです。また、ゲームが終わるとテレビをみて座り、あまり外で遊ぶこともなかったので、いききっかけかと思いはじめました。

最初はそんな動機でしたがサッカーを通して先輩や親以外の大人と関わることで、挨拶や礼儀などのマナー、チームワークなどの協調性、忍耐力が身につくかと思っています。

4月から始め、小4の息子は家での生活ぶりも少し変化が見られ、練習にも早く行ったり、自宅でもリフティングの練習をしたりと努力をす



るようになりました。

小1の息子はつい先日、デビュー戦がありました。試合中はコーチの指導にもきちんと耳を傾け、ピッチの中でも友達と声を掛け合っていました。またゴールを決められても励まし、みんなで力を合わせ、勝とうと努力をしていました。結果は全敗でしたが試合終了後には負けたチームとは思えないぐらいの元気な声で大会本部や相手チーム・応援席へ挨拶

をして回っている姿を見ることができました。サッカーの練習は仕事や家事でなかなか見に行くことは出来ませんが、この試合を通し成長しているなあと嬉しく感じました。

サッカーの練習は平日2時間練習が週3回、加えて土、日とハードで勉強する余裕はなく宿題と遊ぶことで精一杯ですが、今は少しずつ成長していく姿を見守りたいと思います。

まつぎき ともみ

セクハラ、パワハラ等の ハラスメントについて



人材育成委員会委員長
近森病院副院長 川井 和哉

11月9日に医師かつ弁護士でもある長谷部圭司先生をお招きして「セクハラ、パワハラ等のハラスメントについて」と題した講演会を行ないました。

定義から始まり、いくつかの事例をもとに具体的にわかりやすくお話ししていただきました。同じ職場の上下関係のもと、適正な範囲での指導が行われていることが重要であること。適正な範囲を超えるものとして、

- ①仕事と無関係なこと
- ②感情的な対応
- ③不合理な対応
- ④不平等な対応

などが、判断の要素であることが理解できました。

最近のハラスメントに関する報道をみても、まだまだ社会的に十分に理解されていないことも多いと思われます。また、無意識のうちに行われているハラスメントが問題になっており、誰もが加害者、被害者になる可能性があります。

最新の知識や考え方を学ぶことが、

パワハラ、セクハラ撲滅には重要だと思われます。会場ではたくさんの質問やコメントもあり、有意義な会になりました。院内外からおよそ200名の参加があり、ハラスメント



北浜法律事務所・外国法共同事業
弁護士・医師 長谷部圭司先生

に対する関心の高さがうかがわれました。

かわい かずや

ハッスル研修医



高知県生まれ、高知県育ち、生粋の高知県人です。中学、高校では陸上部、大学では硬式テニス部に所属し、学生の頃は真っ黒だった肌もようやく落ち着いてきました。ただ働き始めて全く運動ができていないので、この涼しくて気持ちの良い秋晴れのなか、そろそろランニングでも始めようかと思う今日この頃です。
そんな私も近森病院で働き始め半

一日一日大切に

初期研修医 竹森 悠伊

年が経ちました。いまだに分からないことだらけで、半年間ちゃんと学べたのかなと内心とても不安で焦っています。その分残りの一年半、有意義な研修ができるよう、自分で選んだこの近森病院で、一日一日精一杯頑張ろうと思います。先生方、スタッフの方には毎日迷惑をかけているかと思いますが、よろしく願いいたします。

あと私はスポーツ以外に旅行やキャンプ、食べることやお酒を飲むことが大好きです。これからもこの自然に囲まれた大好きな高知県を堪能しつつ、高知県の医師として元気に頑張っていきたいと思います。

たけもり ゆい

お弁当拜見 66 作り続けて数十年



総務部秘書課
内科秘書 大崎 万規子

お弁当を作り続けて数十年、もうベテランの域です。ベテランとはいつても手抜きのベテランです。

前日の夕飯のおかずはお弁当用に必ずお取り置きし、煮物に至っては、なんども温め直した味しみを

入れて。後は朝の気分次第で、卵焼きや野菜類を入れてというふうにとっても気楽に作っています。

それでも、バランスや彩りのことを考えながら詰める作業は、朝のブ



チ頭の体操です。脳の活性化のためにも、私のお弁当作りはまだまだ続きそうです。 おおさき まきこ



国立精神・神経医療研究センター
病院嚥下障害リサーチセンター
脳神経内科 医長 山本敏之先生

国立精神・神経医療研究センター
病院脳神経内科の山本敏之先生をお
招きして、「窒息事故ゼロを目指し

窒息事故ゼロを目指して！

近森病院脳神経内科
部長 葛目 大輔



て！」という演題でご講演を賜りまし
た。

ご講演では、窒息の概念や窒息に
まつわる医療訴訟、同院での窒息事
故に対する対策などの内容を拝聴し
ました。また、いつでも窒息事故が
起こりうること、窒息事案を職員一

同で共有し、今後の対策に活かすこ
との必要性も説かれました。

当院としてもさまざまな対策を講
じて、限りなく窒息ゼロを目指して
いきたいです。

今回の講演会には約 120 名の方
々が参加され、講演会は盛会裡に終
りました。参加された方々の今後の
診療の一助になれば、主催者として
これに勝る喜びはありません。ご聴
講、ありがとうございました。

くずめ だいすけ

私の趣味

海 = 大好きな場所

近森リハビリテーション病院 5 階病棟東
介護福祉士 井上 美恵



私の趣味はサーフィンです。と
言ったら、泳ぐのが得意そうに思わ
れがちですが、小さい頃に庭の池で
溺れて以来、泳ぐのが苦手で、海な
んて大嫌いでした。そんな、私がサー
フィンを始めたのは、「あいつより
上手くなってやる！」と負けず嫌い
に火が付いたのがきっかけでした。

その頃は岡山に住んでいて、毎週
金曜の晩に家を出て、高知、徳島、
鳥取の海に通って、日曜の晩に帰っ
て来ていました。1 年半程そんな生
活をしていましたが、「毎日サーフィ
ンしたい！」と思い、実家の四万十
市に帰って来ました。四万十市では、
波が少しでもあればサーフィンし

て、とにかく生活の中心がサー
フィンで、時間があったら海に
行く。上手くなりたかったら海
に行く。と自分で自分を強要し
ていました。

現在は、サーフィンが繋いで
くれた縁で結婚した旦那さんと市内
に住んでいて、毎日サーフィン出来
る環境ではないけれど、以前のよう
に自分を強要することも無くなり、
休日にのんびりサーフィンを楽しん
でいます。

サーフィンの魅力は色々ありま
すが、私が一番好きなのは、海に入る
前に砂浜で寝転んで、青空を見上げ
波の音を聞く事です。海に包まれて
いる様な、何とも言えない心地よさ
があります。16 年間続けてきたサー
フィン。10 年後も 20 年後も海にプ
カプカ浮かんでいたいと思っています。

いのうえ みえ

健康保険組合連合会高知連合会 鏡川河畔健康ウォーク

11 月 10 日 (土) に、鏡川河畔約
6 km を約 100 名で楽しみました。



▲沿道のコスモスに季節を感じて



～ひろっぱ講座特別篇～ 生まれ育った地域での講座開催

近森病院整形外科 部長 三宮 将典

この度、「第15回健康まつりの健康講座」におきまして、講師としてお招きいただき、「高齢者の腰痛・膝痛」の演題でお話しをしました。生まれ育った地域での会であり、会場では幾人かか

らお声掛けをいただきました。会場では体力測定や、その他イベントでにぎわっており、高齢者の健

康に対する意欲を感じることができました。健康講座もおそらく200人ほどの方が参加されたのではと思います。注意すべき腰痛や骨粗しょう症治療の大切さ、自分でできる腰痛体操・下肢筋力訓練などについて、お話をいたしました。

地域の方々の健康維持の一助となりましたら幸いです。

さんのみや まさのり



ハビリ地域フェスティバル2018

2018年10月13日

～ハビリ地域フェスティバル2018を終わって～

高知ハビリテリングセンター
行事委員 柏木 雷太



高く澄み渡った秋空の下、
ハビリ地域フェスティバル2018が
開催されました。



昨年は荒天のためやむを得ず開催中止となったため、今年は職員一同、その2年分の思いを持って当日に臨みました。

ステージイベントの来場者参加型のゲームと、地元地域の団体・施設のみなさんによる演奏、演舞披露が会場を大いに盛り上げてくださいました。さらに防災ブースのハシゴ車の乗車体験は、長い行列が閉会式になるまで続くほどの人気で、まるでテーマパークのアトラクションのようでした。

出店屋台も充実しており、満足された来場者のみなさんの笑顔がとて

もすてきで秋空に映えるコスモスのようでした。

かしわぎ らいた



VHJ 研究会 第 29 回職員交流研修会に参加して



近森病院画像診断部

診療放射線技師 技師長 中村 伸治

▼看護師、ST、SW、事務も参加



今回は宮崎県の藤元総合病院が幹事病院となり、シーガイアで行われました。当院からは六つの分科会に参加しましたので、参加者からの言葉を借りて報告します。

「経営戦略」では参加病院の理事長3名より、それぞれのグループ内の取り組みの発表がありました。モチベーションを高く、地域のトップランナーとしての資質と実績をのこしていくため、不断の努力を継続できる工夫がトップおよび現場双方から必要だと考えます。

「看護管理」では退院支援や訪問部門を設置しているところは少ないが、どの施設もすでに急性期の看護師による退院後訪問や訪問看護への同行に取り組んでいました。退院後スムーズに在宅医療に移行するため、看護師の育成のため訪問看護への同行、転院先への訪問を経験させるのは、有効だと考えます。

「医療安全」では、医療安全地域連携活動や重大事故発生時の対応訓練など、他施設の取り組みについて発表があり意見交換がされました。各施設の工夫や積極的な取り組み姿勢と職場・風土作りが参考になりました。

「地域医療」では多職種でかわる

入退院支援をテーマに、グループワークを行い、患者さん、ご家族を中心に、質の高い支援を展開できるよう、院内外で多職種が連携していくことの効果を確認し合い、学びを深めることができました。

「リハビリテーション」では地域包括ケア構築・運営は地域性が影響するため、現場のスムーズな連携と行政の理解が必要、また情報用紙や電子カルテなどが統一されていないため、アウトカムを示すことが困難だと考えます。

「診療放射線」では、職員教育については基準を設定して、どの段階に誰がいるのか、評価するシステムを作っており、基準についても年に一度見直すなど、見習うべきところがたくさんありました。

各施設の方々と意見を交わすことができ、良い刺激となりました。

なかむら しんじ

近森オルソリハビリテーション病院

歌声広場

7月と10月に介護福祉士主催で、開催しました。馴染み深い童謡や歌謡曲を歌い、楽しいひと時となりました。



近森リハビリテーション病院

日本医療機能評価機構の認定を受けました

主たる機能 リハビリテーション病院 3rdG:Ver.2.0

付加機能 リハビリテーション機能 Ver.3.0

ともに、10月5日に認定いただきました。



"Shoulder Arthroplasty Advanced Course in Bangkok" に参加して

近森病院整形外科 川真田 純



このたび、2018年10月4、5日に "Shoulder Arthroplasty Advanced Course in Bangkok" に参加させていただきました。

この研修はバンコク・チュラロンコン大学医学部 Chula Soft Cadaver Surgical Training Center にて、献体を用いて肩関節を中心とした上肢帯

の解剖、またその構造を基にした手術手技を研修するものであり、札幌市・北新病院から末永直樹先生に講師を務めていただきました。

末永先生は整形外科での上肢帯の診療、手技にて非常にご高名な先生であり、特にその解剖的な知見を基にした一時修復不能な腱板断裂に対しての筋腱移行術で、肩関節診療の第一人者となっている方です。

実際の手術手技のなかでどのようなことに留意しながら作業を進めているのか、普段の手術のなかではなかなか術者が伝えることができない事柄を丁寧に解説いただきました。

普段上級医が行っている手術の術者からの目線で研修させていただくことでこれからの日常診療に大いに役立つものになりました。

今回バンコクは初めてでしたが、研修中タイ人と間違えられることもしばしばあり(?)、個人的にはとてもアットホームな雰囲気を感じました。また機会があればぜひ訪れてみたいと思います。

まだ整形外科医としては一人前ではありませんが、手技だけでなく診療や診断等の場面でも今回の研修で得た知見を、患者さんに還元していけるよう精進します。

かわまた じゅん



▲後列右から3人目が末永先生

2018年米国リウマチ学会 (American college of rheumatology annual meeting 2018; ACR2018) 参加記録

近森病院リウマチ・膠原病内科

科長 吉田 剛



2018年10月20～24日の5日間、シカゴにて開催されたACR2018に参加してきました。TNF阻害薬によって関節リウマチの治療に革命が起きたのを皮切りに、リウマチ膠原病の分野の研究および臨床の現場は急速に発展し続けています。そのなかで、2018年の学術集会も各分野において確実な進歩が感じられる内容でした。

炎症性筋疾患では新しい分類基準とその問題点が議論され、治療においても難治性の皮膚筋炎および封入体筋炎への新しい治療の試みが検討されていました。近年アジア人のスタチン暴露歴のない抗HMGCR抗体陽性免疫介在性壊死性ミオパチーが相対的に多いことが注目されてきていますが、当施設からはこれに関連

した特異な症例を報告し、幸いにも今年のプレゼンターとしてベスト3に入る評価をいただきました。

ポスターセッションも連日議論が活発になされ、私の発表したシェーグレン症候群に合併した末梢神経障害の画像診断に関する研究は、幸い Johns Hopkins 大学の Julius Birnbaum 氏をはじめとする著名な研究者と議論する機会があり、いくつかの重要な指摘をいただきました。また、他の膠原病で有効とされる生



▲ベスト3プレゼンターの評価をいただく

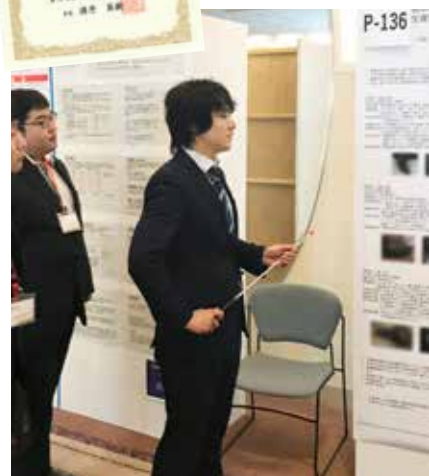
物学的製剤や免疫グロブリン大量療法といった新しい治療がシェーグレン症候群においても有効性を示しつつあるデータが報告され、大いに期待される内容でした。

3日目には聖路加国際病院、沖縄県立中部病院、高知大学などの先生方との懇親会もあり、華やかなシカゴの街の夜を少しだけ楽しむことができました。たいへん実りの多い学会で、当院を受診されるリウマチ膠原病患者さんの診療の質の向上に繋がられるよう、さらなる努力を積み重ねていきたいと考えております。

よしだ たけし

希な泌尿器科外傷症例3例の 手術手技について発表

近森病院泌尿器科 葺石 陽亮



2018年11月1～4日、長崎県で行われた第70回西日本泌尿器科学会総会において学術奨励賞をいただきました。

当院は救急病院という特性から泌尿器科外傷疾患症例が多くこの半年間でまれな泌尿器科外傷症例を3例経験することができました。その診断・手術法について有用だった手技

について発表しました。

当日は参加者から活発な質問や討議が行われ、泌尿器科医にとっても治療に難渋していた疾患であったと思いました。

今後もよりよい治療を患者さんに還元できるよう日々精進していきたいと思えます。

ふきいし ようすけ

看護部 病院見学ワーキンググループ 第一弾

2018年10月5、6日

飯塚病院 TQM 発表大会に参加して

近森病院北館3階病棟

看護師長 小松 潤子



▲右端が筆者

今年度の看護部の取り組みとして、各院の師長7～10名で四つのワーキンググループ（病院見学ツアー、他部署研修、有休取得率改善、承認）を結成し、それぞれのグループで活動を行なっています。今回、病院見学WGの企画第一弾として、飯塚病院の施設見学及びTQM発表大会に5名の師長・主任が参加させて頂きました。

飯塚病院は福岡県の中央部に位置し、当院と同じく救命救急センターを持ち、地域医療支援病院・地域災

害拠点病院として福岡県の医療の中核を担う病院で、「まごころ医療、まごころサービス、それが私たちの目標です」という理念・ビジョンを掲げ医療に取り組まれていました。

今回の病院見学の大きな目的としてTQM (Total Quality Management) 発表大会への参加がありました。飯塚病院は企業家である現会長：麻生泰氏の「質のよい製品を安く売するためのシステムづくりが基本である」という理念のもとTQM活動を取り入れていました。コスト削減や多様化する患者のニーズに対して「患者満足度の向上」「医療の質の向上」のため、職員一人ひとりがその手法を身につけ、取り組む体制が根づいていました。

毎年1月に院長先生から発信される「目指せ、チームの最適医療」「コミュニケーション物語」などユニ-

クな方針に沿って、現場の問題、課題を抽出し組織全体で業務改善を行っているとのこと。100周年を迎える今年度のTQM大会は「届けよう"100年のまごころ"、そして踏みだそう新たな100年へ」という方針のもと、患者さん目線で取り組んだ20部署の発表がありました。

当院でも毎年業務改善報告会を行っていますが、発表のための活動になりやすい傾向があります。大会を通して関わったスタッフが「やってよかった」という達成感が持て、活動の成果が患者満足につながるような取り組みとなるように支援していくことが課題であると感じたと同時に、看護部だけでなく、組織全体（検査部や薬剤部、管理部等）で改善活動に取り組んでいけるよう発信していければと思います。

こまつ じゅんこ



癒やしをあなたに

緩和ケア委員会委員長
近森病院外科部長 田中 洋輔



今年も11月13日に「緩和ケア」を知ってもらうための催しを、17日には職員向けに研修会を開催しました。

一般的には「緩和ケア」とはがんだけだと思われがちですが、心不全や神経難病なども対象となっています。当日はハンドマッサージやいのちのスープの提供、サプリ

メントの試飲を行い「気分が明るくなった」「リラックスできた」という多くの声が聞かれました。

また、手作り作品も多く集まり、委員会で選考を行い紙面で表彰させていただきました。ありがとうございました。

研修会においても、患者さんの体験談を聞き、自分たちの患者さんとの向き合い方を改めて考える機会となりました。

たなか ようすけ



▲ハンドマッサージ



▲最優秀作品（ビーズ苺のストラップ）



▲優秀作品3点（バッグ、ミサンガ、丸木仏）



▲いのちのスープ提供



▲11月17日職員向け研修会

高知県第1号の放射線被ばく相談員

災害や原発事故などによる 環境汚染も含めた相談に対応



今回、私が取得した放射線被ばく相談員は、医療放射線だけでなく、災害や原発事故などによる環境汚染も含めた相談に対応できる相談員を育成しよ

近森リハビリテーション病院画像診断部
診療放射線技師 高橋 宏幸

うと、日本診療放射線技師会が設けたものです。

平成30年11月現在、全国に195名、四国には他に4名の認定者がいます。また、近森会には、被ばく低減施設認定の要件でもある放射線管理士認定者が5名在籍し



ています。

この放射線被ばく相談員と併せて、放射線管理面などでも、より一層県民のみなさまのお役に立てればと考えています。

たかはし ひろゆき

ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど



すぎもと けんたろう ①
麻酔科科長（部長代行）②
兵庫県三田市③岡山大学④
テニスが好きです！

杉本健太郎



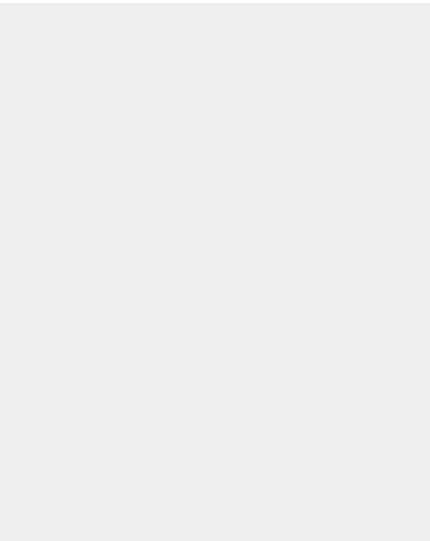
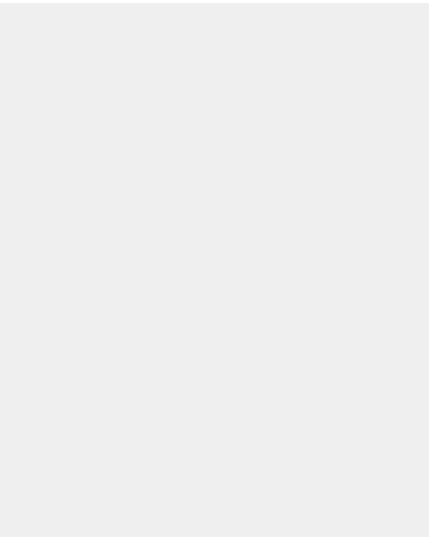
すぎはら まゆ ①麻酔科
医師②広島県③岡山大学
④出身が広島市で、好きな
野球チームは広島カープで
す。クライマックス・日本
シリーズぜひ応援して下さい。

杉原 真由

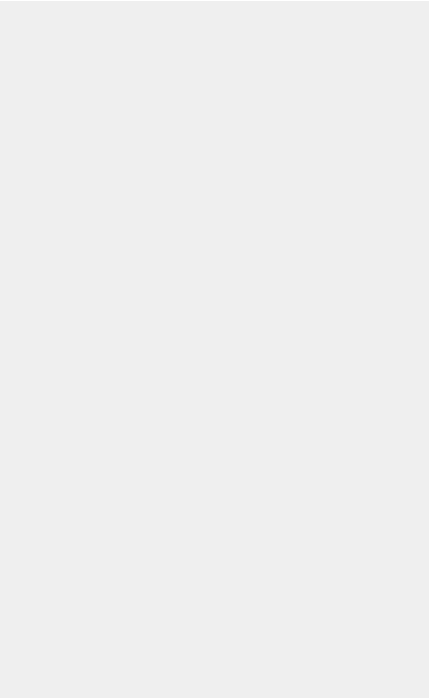
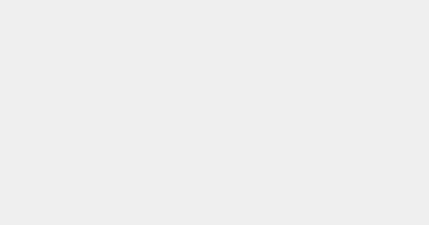
職員対象

インフルエンザワクチンを福利厚生で

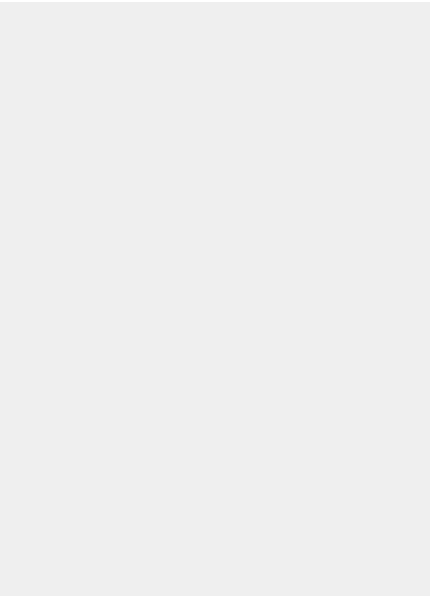
毎年恒例の職員向け 11 月インフルエンザワクチン接種を、今年は近森会健保組合の福利厚生の一環として、無料で行いました。



おめでとう



人の動き 敬称略



2018年10月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	19,430 人
新入院患者数	983 人
退院患者数	975 人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	14.20 日
地域医療支援病院紹介率	79.06 %
地域医療支援病院逆紹介率	158.28 %
救急車搬入件数	530 件
うち入院件数	256 件
手術件数	424 件
うち手術室実施	272 件
うち全身麻酔件数	161 件

● 2018年10月 県外出張件数 ●
件数 68 件 延べ人数 138 名

編集室通信

先日、豪華客船で旅行中のドイツ人女性に道を訊かれ、バス停まで案内することになった。出身や滞在期間を聞くぐらいで、すぐに目的地に到着したが、もっと色々聞き出せばよかったと思った。おすすめの国や世界周遊について…あなたはやっぱりセレブなのか、とか！しかし、このセレブの意味も日本独特だったことを今知った（笑）。 まっちゃん

近森マインド 40年のオーラ

ニコニコマークの笑顔

「救急室の和田」として、院内はもとより地域の病院の皆さん方からも、ずっと頼りにされてきた和田道子師長は、4月1日で勤務丸40年になった。

「とにかく人に恵まれました。周りに助けてもらい続けて…」と、日々を愛おしむような口調。ニコニコマークの笑顔に周りはどれほど癒やされ、助けられてきたのだろう。

公私ともにお互い様の良好な関係があつてこそ、「24時間365日の救急最前線」に居続けられたのだろうが、その力の源はどこから生まれたのだろう。

救急にハマったわけ

ひとことと言えば、「学校の授業と現場が一致して、なるほど！と納得できることが多かった。それで、臨床の面白さと救急にハマった感じ」だった。

つまり、話はやはり40年前までさかのぼる。高校を卒業し看護師への道を志したのは、担任の先生の勧め。まずは准看護師の免許を取得、続いて正看へ。「近森病院は進学に力を入れていて、学生の勉強に対して協力的だから」と、近森病院との出会いも正看への進学も恩師の先生の勧めに従ったためだった。

一日の半分は学校で、あとの半分は病院での仕事。ヨチヨチ歩きの最初は何も分からない。ただ、先輩の仕事ぶりを見ているだけだった。処置や手術の後片付けは看護学生の仕事。「これは何に使うのやろ?」。機械の名称や操作方法など学べるのがいっぱいあった。

勉強すると、諸先輩の真似で意味もよく分からずやっていた看護行為の



▲いざ、初めての病院実習へ！厳粛な空気、「戴帽式」で(1980.3.13。いちばん手前)



「根拠」に気づく。「先輩がこうしていたのは、こういうわけか」、「この行為はこのためだったのか」。まさに、「学ぶ喜び」「知る満足」の連続だったという。

学ぶ喜びや知りたい気持ちは、人それぞれむろん持っているだろうが、目の前の患者さんを、どうケアし、どんな対応をするか、その気持ちには温度差が生まれるのではないだろうか。

最前線にポッチリの距離感

十和村という近所中が大きな家族のような人間関係に生まれ、顔を合わすと声をかけあった環境は、「医療の最前線」にきっとポッチリの(※ちょうど良い)距離感を育てたのだろう。

地域医療連携室に異動した際も、かかりつけ医の先生方と繋がりができていたから、「救急外来にいた和田です」で話が早かった。

救急患者さんを受け入れる際には「どんな情報が必要か」も、長年の経験や勘が力になった。そんななか、搬送の救命士さんからの質問はどんどん高度になってきた。彼らはどんな勉強をしてきたのだろうと興味がわき、救急救命士の資格を取りにいった。ただ、「その場、その場をしのいでいる」という一抹の焦りや、「自己学習の限界」を感じる部分もあったという。

懸案はこうして乗り切った！

それで、49歳のとき、「半年おヒマをください」と、思い切って救急の認定看護師の資格を取りに行かせても

らった。「地域医療連携室6年のプランクは大きかった(涙)。クラスでは周りを手こずらせたと思う(笑)。みんなに助けられてゲットできた認定免許です」と。

外来センターに異動して3年。救急の処置は少ない筈だが、急変対応もある。「患者さんとスタッフ、両方の安心」を引き受けるのが、認定看護師として、また師長としての役割とも心得る。

そして、「もともと一緒に働いてきた仲間たち。いつも寛大な心でありがとう。管理業務の苦手な私をベテランナースがしっかりとサポートしてくれてます(笑)」とも。救急インストラクターの仕事では、土日に家を留守にすることも相変わらずだ。休みに、ご近所さんから「きょうはおるかね!？」と声をかけられ、苦笑…の仕事人間だ。

超特級の幸福者

この暮らしを続けられたのは、とても協力的な夫と、慈しみ深い舅姑のおかげだった。看護学校の同期で、この春、心療センター事務長を退職した夫は、代々続く田畑の世話に精出している。お米も野菜も作る。舅が元気だった頃は鶏まで飼っていた。

自家製の卵焼きと美味しいおむすびは院内救急研修で、参加者大喜び！と聞いている。



▲院内研修名物。和田農園のおむすび、具は大根ぬき菜一夜漬けなど。貝だくさんふわた口だし巻き卵も絶品!

90を過ぎた姑は今も現役の如くで、嬉々としてお百姓に戻った夫の廣政さんを遠隔操作中らしいから、頼もしい。

三人の子どもたちもそれぞれが医療の道へ進み、10年前の『ひろっぴ』当欄にある「道子さんは、滅多にいない超特級の幸福者」ぶりは健在と見た。



▲f&f(freedom & flexibility) マークを模したキャンドル
▼実行委員



近森病院附属看護学校教務課

専任教諭 島本 恵



看護学生 (4期生)

1年 山本 智晶

10月下旬に初めての實習を控えた10月5日、看護学生としての自覚と決意を宣誓する「第4回誓いのセレモニー」を、たくさんの臨床指導者の方々のご参加をいただき開催することができました。

今年度もこれまでと同様に、8名の学生を中心にセレモニーの企画、運営を行いました。学生たちは、学校の理念でもある「自由:Freedom」「柔軟さ:Flexibility」をテーマに掲げ、意見を出し合いながら準備をしました。

「どんな誓いを述べようか」、「一人ひとりが手にする灯火は2年生からもらいたい」、「臨床指導者さんへのメッセージはこんなカードにしたい」…案を募り、意見をまとめ、クラスメイトと協力し、集団で成し遂げることに立ち向かいセレモニーに真剣に取り組みました。4期生はこの實習を皮切りに、3年間で多くの實習を通して学びますが、セレモニーでの誓いを忘れず、それぞれの看護師像に近づけるよう豊かに成長してもらいたいと思います。

近森会グループの職員の皆様、實習施設の看護部長をはじめ職員の皆様、お忙しい中ご臨席くださいまして、本当にありがとうございました。

しまもと めぐみ

私たち4期生は、自分たちのセレモニーも印象に残るものにしたい、という強い思いを持ったリーダーを中心として準備を進めてきました。少ない時間のなかで、意見を出し合い共有しながら、練習することができ、クラス全体が少しずつまとまっていくのを感じました。

セレモニーを行なうにあたって、先生方のサポートや先輩方からの助言が、わたしたちを後押ししてくれました。本番の直前に変更した部分もありましたが、全員が臨機応変に対応して、セレモニーを作り上げることができました。

「看護の道を志す者としての自覚と責任をもち、多くの知識と確かな技術を身に付けること」、「初心を忘れず、患者様やご家族に寄り添うこと」、「自由で柔軟な発想を大切にすること」の三つの誓いは、決して簡単なことではありませんが、多くの人に支えられていることに感謝の気持ちを忘れず、これからも仲間を大切に積極的に学んでいきたいと考えています。

誓いのセレモニーにご参加いただき、ありがとうございました。

やまもと ちあき